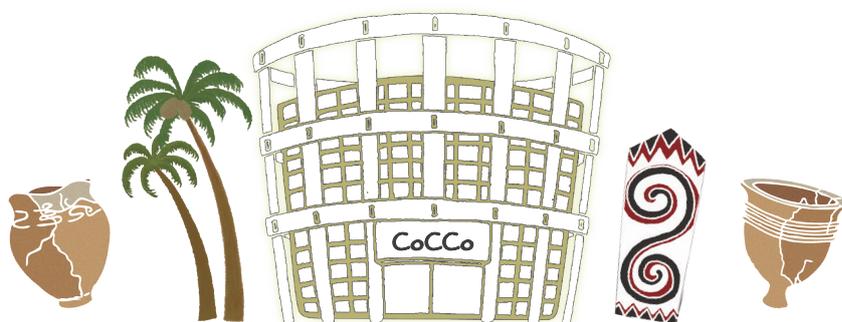


指宿市考古博物館 IBUSUKI ARCHAEOLOGICAL MUSEUM



## 博物館年報・紀要

### 第 13 号



指宿市教育委員会

2019年3月

## 序文

このたび、指宿市考古博物館 時遊館 COCCO はしむれ年報・紀要第 13 号を刊行いたします。本号年報編では平成 29・30 年度の当館の活動記録をまとめています。この 2 年間に振り返りますと、平成 29 年 10 月から平成 31 年 3 月まで開催した特別企画展「西郷隆盛と海洋国家薩摩―明治維新へ指宿が果たした役割―」を中心に様々なイベントを企画し、市内外だけでなく県外からのお客様にも指宿の魅力や歴史、文化を伝えることができるよう職員一同精進してまいりました。結果として、6 万 5 千以上のお客様に特別企画展をご観覧いただくことができました。これもひとえに当館の活動を常日頃から見守ってくださる市民の皆様のおかげであると深く感謝しております。

また、紀要編では上記特別企画展で展示した「色絵薩摩火薬入れ」について鹿児島大学法文学部渡辺芳郎教授より玉稿を賜り、これまで気づかれていなかった色絵薩摩の位置づけについてご検討していただきました。

今後も当市の新たな文化財資料の掘り起こしや再整理を通して、文化財への理解を深め、適切な処置・保存が実施されることを祈念いたします。

平成 31 年 3 月

指宿市考古博物館  
時遊館 COCCO はしむれ  
館長 西森 廣幸

# 目次

## 平成 29 年度各事業の実施状況

1. 博物館事業の部	
(1) 企画展・体験学習・講座等	1
(2) 学習支援活動	7
2. 後援・共催・協賛事業及び施設利用の部	
(1) 指宿まるごと博物館実行委員会への活動支援	9
(2) 時遊館C O C C Oはしむれ友の会支援活動	10
(3) 市民講座「まちの宝を知ってみよう」	10
(4) 展示会の開催	10
(5) いぶすき検定への協力	10
(6) 指宿市観光協会への協力	11
(7) いぶすき大好き体験事務局への協力	11
3. 発掘調査・整理作業の部	
(1) 市内遺跡確認調査	11
4. 文化財保護管理の部	
(1) 文化財防火デー	11
(2) 指定文化財等の保護	11
5. 刊行物・研究活動の部	
(1) 刊行物	12
(2) 学会発表・講演会発表・論文発表等	12

## 平成 30 年度各事業の実施状況

1. 博物館事業の部	
(1) 企画展・体験学習・講座等	13
(2) 学習支援活動	15
2. 後援・共催・協賛事業及び施設利用の部	
(1) 時遊館C O C C Oはしむれ友の会支援活動	18
(2) 市民講座「まちの宝を知ってみよう」	19
(3) 展示会の開催	19
(4) いぶすき検定への協力	19
(5) 指宿市観光協会への協力	19
(6) いぶすき大好き体験事務局への協力	19
3. 発掘調査・整理作業の部	
(1) 市内遺跡確認調査	19
(2) 橋牟礼川遺跡報告書作成	20
(3) 今和泉島津家墓地発掘調査報告書作成	20
4. 文化財保護管理の部	
(1) 文化財防火デー	20
(2) 指定文化財等の保護	20
5. 刊行物・研究活動の部	
(1) 刊行物	22
(2) 学会発表・講演会発表・論文発表等	22

## 紀要編

指宿市秋山家伝来の色絵薩摩角形瓶	渡辺 芳郎	23
------------------	-------	----

# 平成 29 年度各事業の実施状況

## 1. 博物館事業の部

### (1) 企画展・体験学習・講座等

#### ① GW イベント「はしむれ子どもまつり」

(4月29日～5月7日、体験者3,179人)

ゴールデンウィーク限定イベントとしてテーマを「古代体験」として設定し、常設展示室の展示品をモデルとしたミニチュア土器を発掘する「ミニ土器発掘体験」や、シカの角を削って作る「シカの角アクセサリー作り体験」、竹製の弓での的を射る「縄文弓矢体験」を実施した。その他、国指定史跡橋牟礼川遺跡史跡公園を活用した「春のネイチャーゲーム」、外部団体と連携した「鉄道模型Nゲージ体験」や「ミニ四駆レース」、「プラレール遊び」等の各種体験学習、三世代交流の場としての昔の遊び体験（けん玉・ビー玉・おはじき・あやとり・めんこ・竹とんぼ等）を実施した。

#### ②ミニ企画展「いぶすきシェルコレ2017 貝にまつわる物語」

(7月1日～8月27日、来場者：2,199人) ※観覧無料

夏季休暇に合わせて、指宿市在住の貝研究者 中島耕作氏（元日本貝類学会会員・元九州貝類談話会会員、橋牟礼川遺跡総括報告書貝資料同定指導者）所蔵の国内外で採集された貝の展示を行った。今年は、貝の種類や生息域だけでなく、貝にまつわる信仰（魔除けとして用いられた貝や古代人の副葬品に用いられた貝など）に焦点を当て、貝と人々の営みについても紹介した。そのほか、指宿市内の貝殻採集ポイントや、採集の方法、標本の作り方について解説した。観覧者の中には、採集した貝を持参して、標本を見ながら種類を調べる親子が多く見られた。

#### 【関連イベント】

##### ■「貝を使ったデコパージュ作り」(7月17日)

参加者 26名

薄い紙に描かれた図柄を貼り付けるデコパージュという技法を応用して、ホタテガイの内面を装飾するデコパージュ作りを実施した。オリジナルの小物入れを作成できるということで親子での参加が多く見られた。

##### ■「貝標本作り」(8月17日、19日、20日)

定員 10名（平成29年度第2回学びのふるさと講座として開催）

中島耕作氏を講師に招き、本格的な貝標本作り体験を実施し、貝の採集ポイントや貝標本作りのノウハウを講義していただいた。また、貝の標本作りに大切な貝同定の方法や一覧表の作成、科目ごとに整理する方法を指導いただき、鹿児島県理科作品展に出展できるような標本作りについて学んだ。

#### ③ミニ企画展王子田進コレクション 歌川広重「東海道五十三次の世界」

(8月19日～10月29日 来場者：4,098人) ※観覧無料

江戸時代の浮世絵は、日本が世界に誇る芸術作品である。今回は、ゴッホやモネにも影響を与えた風景画の天才・歌川広重の代表作「東海道五十三次」の画集 58点を展示した。

#### ④特別企画展「西郷隆盛と海洋国家薩摩－明治維新へ指宿が果たした役割－」

(平成 29 年 10 月 14 日～平成 31 年 3 月 17 日) ※平成 29 年度時点 来場者 11,328 人 ※有料

西郷隆盛は「維新十傑」に数えられる、言わずと知れた明治維新の立役者である。江戸時代の鎖国体制下において、日本で唯一琉球貿易口となった鹿児島藩は、明治維新の中核足り得る軍事力と財政力を有するとともに、常に世界へ目を向けて国の将来像を描ける為政者を擁していた。本企画展では、西郷隆盛が島津斉彬に登用されてから西南戦争で没するまでの数奇な運命について、県内外から貴重な資料を借用し展示した。この中では、西郷活躍の背景を紐解くと浮かび上がってくる”明治維新へ指宿が果たした役割”に光を当て、海外へ開けた山川港の重要性と、藩の財政を支えた海商濱崎太平次・天璋院篤姫等の偉人たちとの関わりについて地域から発信を行った。

#### ■展示構成

##### 第 1 章 山川港が支えた海洋国家

###### 第 1 節 「海の道」とアジア・西欧の交差点

###### 第 2 節 琉球口貿易と鹿児島藩－鎖国下の玄関口－

…国際貿易港・山川港の歴史と、鎖国下での琉球口貿易、そして薩摩が有する「海の道」について紹介した。

##### 第 2 章 薩摩「富国強兵」への道－海商たちの活躍－

###### 第 1 節 強国鹿児島藩の衰退

###### 第 2 節 鹿児島藩復活への道

###### 第 3 節 調所広郷の秘策「海の道」を利用した藩密貿易

海商濱崎太平次と河野覚兵衛の活躍

…後に明治維新の財政基盤財産を作った調所広郷と指宿の海商たちの活躍について紹介した。

##### 第 3 章 世界の海を見据えた斉彬と西郷－明治維新へ、新しい国の形－

###### 第 1 節 島津斉彬が見据えた新たな海洋国家薩摩

###### 第 2 節 島津斉彬と西郷隆盛との出会い

###### 第 3 節 篤姫の徳川家入奥と西郷

###### 第 4 節 「順聖院様御深志」

###### 第 5 節 明治維新へ、西郷飛翔のとき－新しい国の形「心の海洋国家日本」への道－

…斉彬が目指した海洋国家日本の形について、そして西郷隆盛が斉彬に見出され、龍郷潜居・沖永良部流刑を経て薩摩に帰還し、斉彬の意思を継ぎ明治維新を成し遂げるまでの活躍について紹介した。

##### 第 4 章 薩摩の数奇な運命と西郷

###### 第 1 節 遣韓論と西郷の下野

###### 第 2 節 鰻温泉と西郷隆盛

###### 第 3 節 西南戦争

###### 第 4 節 西郷、再び英雄へ

###### 第 5 節 海洋国家薩摩の数奇な運命と西郷隆盛

…下野して以降の故郷での西郷の暮らしから、最後の士族反乱西南戦争、そして明治維新から学ぶ我々の前に広がる「海の道」について紹介し、特別企画展のまとめとした。

※開催にあたっては、公益財団法人 日本海事科学振興財団 船の科学館「海の学び ミュージアムサポート」の助成金を利用した。

### ■同時開催展示「大武進コレクション西南戦争と指宿ー地域への発信 地域への報告ー」

明治 10 年に東京で発行された、西南戦争について報道した新聞や錦絵を中心とした資料を展示した。特に指宿市から出兵した方々に焦点をあて、山川で再起を図った「山川切込」や、薩摩の婦人の活躍について紹介した。

### ■はしむれ日曜講座

市民を対象に指宿まるごと博物館構想推進の一環として、企画展に関連する講座とフィールドワークを開催した。

開催日	講座名	内容	講師	聴講者数
10月17日	「指宿が明治維新に果たした役割」	指宿が明治維新に果たした役割に関する講座と企画展のギャラリートーク	西牟田 瑛子 (当館学芸員)	12
2月18日	フィールドワーク	山川港が明治維新に果たした役割と、西郷が愛した温泉郷・鰻をテーマとして巡るまち歩き	鎌田 洋昭 (当館学芸員) いぶすき西郷どんガイド会	20

### ⑤藍染体験 T シャツ作り

(8月3日 定員 15名)

時遊館 COCCO はしむれ友の会会員の協力を得て、タデアイを材料とした藍染体験を夏休みの家族向け体験学習として実施した。今年度は、昨年度も好評であった T シャツを染める指導を行った。

### ⑥朝隈俊男石粉粘土教室「砂吉君の友だちを作ろう！」

(9月16日・18日 ※17日は台風のため中止 参加者：44名)

本市出身の人形作家朝隈俊男氏の指導をいただき、石粉粘土を使って朝隈氏が考案した砂楽のマスクットキャラクター「砂吉」の友だちとなる動物キャラクターを作成する体験学習を開催した。

### ⑦「だるまびな絵付け体験」

(3月3日 定員 15名)

ひなまつりに合わせて、だるまの形をした雛人形の土台に色を塗って小物を飾り、オリジナルの「だるまびな」を作成する体験を実施した。

### ⑧学びのふるさと講座 (全5回 聴講者数 278名)

自然・歴史・考古・産業など様々な分野の専門家を招き、講座を開催することで、市民が生涯を通じて学び、その学習効果や能力をまちづくりに生かし、潤いと活力のある郷土の実現を図ること、そして「指宿まるごと博物館」の素材の活用、市民の文化財愛護精神の醸成を図ることを目的とした講座を全5回開催した。

平成 29 年度は国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡、ミニ企画展「シェルコレ 2017」と、特別企画展「西郷隆盛と海洋国家薩摩」に関連するテーマで講座を設けた。

	開催日	テーマ	講師	聴講者数
1	6月24日	橋牟礼川遺跡の出土資料から探る古代の政治	中原一成 氏 (公財) 県文化振興財団埋蔵文化財調査センター調査課長	28
2	8月5日	指宿の貝と貝標本作り	中島耕作 氏 元九州貝類談話会会員・元日本貝類学会会員・元理科教諭	10
3	10月21日	子孫からみた西郷隆盛	西郷隆夫 氏 西郷隆盛曾孫・株式会社ナンシュウ代表取締役	71
4	12月3日	西郷隆盛と明治維新	松尾千歳 氏 尚古集成館 館長	67
5	1月20日	西郷南洲翁の魅力	徳永和喜 氏 西郷南洲顕彰館 館長	102

⑨スター・ウォッチング (全3回 参加者計 27名)

季節ごとに開催している星空観察会。当館所有の天体望遠鏡を用いて、季節の星座とその動きを観察し、天体に興味・関心を持ってもらうことを目的としている。

	開催日	星座や星の観察内容	講師	参加者
1	5月19日	春の星座と木星と月を見よう！	当館学芸員	17
2	8月4日	天の川に広がる七夕の夏の星座と土星の輪を天体望遠鏡で見よう！	当館学芸員	10
3	10月21日	月と秋の星座を見よう！	当館学芸員	雨天中止

⑩はしむれジュニア学芸員養成講座 (講座：12月26日 受講者：22人)

市内の児童・生徒に、様々な体験を通して学芸員の仕事を理解させると同時に、時遊館 COCCO はしむれの常設・特別展示室の案内および日本で初めて縄文土器と弥生土器の新旧関係を明らかにした国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡の意義と重要性を理解させ、それらを説明できる人材を要請することを目的とする。平成 29 年度は小学 5 年生～中学 2 年生を対象に、時遊館 COCCO はしむれのジュニアガイドの養成講座を実施した。平成 27 年度から 2 回目の開催。講座修了後には、年間パスポートを兼ねた「はしむれジュニア学芸員カード」を発行した。また、実践として、後日、来館者への特別企画展の解説案内を行った。

- ・橋牟礼川遺跡を知ろう！
- ・西郷どんを調べてみよう！
- ・特別企画展の展示案内をしてみよう！



はしむれ子どもまつり「ミニ土器発掘体験」



夏のスターウォッチング



貝の標本作り（第2回学びのふるさと講座）



朝隈俊男石粉粘土教室「砂吉君の友だちを作ろう！」



特別企画展 展示室入口外観



特別企画展 展示室の様子



特別企画展 フォトスペース



特別企画展 オープニングセレモニー後の展示解説

**時遊館 COCCO はしむれ 特別企画展**



島津斉彬藩主時代の白磁厚  
薩摩伝承館蔵



瀧崎家屋号入盃  
鹿児島県歴史資料センター-黎明館蔵



篤姫愛用の手あぶり



西南戦争使用の銃  
熊本県立西南戦争資料館蔵



瀧崎太平次の大福帳  
鹿児島県歴史資料センター-黎明館蔵

# 西郷隆盛と 海洋国家薩摩

— 明治維新へ指宿が果たした役割 —



描かれた西郷隆盛  
(明治10年)  
大武文庫蔵

草双紙「鹿児島電信」部分

**■ 期間**  
平成29年10月14日(土)  
▶ 平成31年3月17日(日)  
※展示品は期間中入れ替えがあります。

**■ 開館時間**  
9:00~17:00 (入館は16:30まで)

**■ 休館日**  
毎週月曜日, 第4水曜日(祝日の場合は翌日),  
年末年始(12月29日~1月3日)

**■ 観覧料**  
大人 200円, 高校・大学生 200円, 小人 100円

上記期間のうち, 平成30年1月12日から平成31年1月14日までは, 「大河ドラマ『西郷どん』ドラマ館」が併設されます。

■ 年中無休  
■ 観覧料(特別企画展+ドラマ館セット料金)  
高校生以上500円, 小・中学生 300円  
※団体割・家族割有 ※特別企画展のみの観覧はできません。

**講演会 (13:30~15:00 時遊館COCCOはしむれ)**

10/21(土) 講師: 西郷 隆夫 氏 (開關塾社 代表取締役)  
「私の曾祖父 西郷隆盛」

12/3(日) 講師: 松尾 千歳 氏 (尚古集成館 館長)  
「西郷隆盛と明治維新」

1/20(土) 講師: 徳永 和喜 氏 (西郷南洲顕彰館 館長)  
「西郷南洲翁の逸話」

**同時開催**

大武進コレクション  
**西南戦争と指宿**  
— 地域への発信 地域への報告 —

錦絵や新聞, 草双紙から  
西南戦争を紐解く!



■ 主催 指宿市考古博物館 時遊館 COCCO はしむれ

〒891-0403 鹿児島県指宿市十二町2290番地 TEL: 0993-23-5100

■ 協力 船の科学館「海の学び ミュージアムサポート」

**海の学び** Supported by  
ミュージアム THE NIPPON FOUNDATION  
サポート

琉人御召舟之図(部分) 鹿児島市立美術館蔵

特別企画展「西郷隆盛と海洋国家薩摩—明治維新へ指宿が果たした役割—」ポスター

## (2) 学習支援活動

来館者に対する学習支援のほか、博物館実習生や職場体験学習の受け入れ、市内各小学校の総合的な学習の時間の支援を実施している。

## ①キャリアスタート・ウィーク

市内の中学 2 年生を対象とした職場体験学習の受け入れを行った。期間は例年 5 月のうち 5 日間であり、受入人数は南指宿中学校生徒 4 人、北指宿中学校生徒 4 人、西指宿中学校生徒 1 人である。体験内容として、常設展示室の解説案内を中心に、勾玉作り体験等の体験学習や、土器の洗浄、観察作業、文化財パトロールを行った。

## ②平成 29 年度小・中学校博物館利用実績 (●：指宿市内)

	月	日	曜日	学校名	人数	体験学習 (記載のない団体は見学のみ)	指宿大好き 体験
1	4	15	金	東中学校	64	石勾玉	
2	4	20	水	池田小学校●	6		
3	4	22	金	川尻小学校●	10	オリビン採集	
4	4	26	火	柳田小学校●	68		
5	5	13	金	菓子野小学校	14		
6	5	14	土	丹波小学校●	96	火おこし	
7	5	18	水	鶴峰小学校	23		
8	5	18	水	大和合同小学校 5・6 年生	32		
9	5	19	木	西指宿中学校 2 年生●	29	戦跡・開聞岳噴火・古代史	
10	5	20	金	松原小学校 1～4 年生	10	キーホルダー	
11	5	26	木	内之浦中学校	14		
12	5	27	金	大成小学校 6 年生●	43	石勾玉	
13	6	10	金	青戸小学校 6 年生	14	オリビン採集	
14	6	16	木	水上村立連合小学校	35	石勾玉	
15	6	21	火	開聞小学校 3 年生●	23		
16	6	22	水	丹波小学校 2 年生●	7	町たんけん	
17	7	13	木	原田小学校 5・6 年生	25		
18	9	7	水	筑紫野中学校	36	オリビン万華鏡	○
19	9	8	木	西有田中学校	13	オリビン万華鏡	○
20	9	8	木	天拝中学校	19	石勾玉	
21	9	8	木	御陵中学校	89	絵付け	
22	9	9	金	筑山中学校	16	石勾玉	○
23	9	9	金	那珂川中学校	73	オリビン万華鏡	
24	9	10	土	魚見小学校 6 年生●	25		
25	9	14	水	那珂川北中学校	36	石勾玉	
26	9	15	木	平野中学校	79	オリビン万華鏡	
27	9	15	木	国見中学校	15	オリビン万華鏡	
28	9	16	金	大野中学校	37	オリビン万華鏡	
29	9	22	木	春日中学校	38	オリビン万華鏡	
30	10	12	水	池田小学校 6 年生●	6	大地の成り立ち	
31	10	12	水	高須小学校	38	オリビン万華鏡	
32	10	19	水	柳田小学校 2 年生●	86	公共施設の利用	
33	10	19	水	山川小学校 2 年生●	17	生活の時間	
34	10	20	木	西俣小学校	19		
35	10	20	木	昭和第一高等学校	42	オリビン万華鏡・石勾玉	

	月	日	曜日	学校名	人数	体験学習 (記載のない団体は見学のみ)	指宿大好き 体験
36	10	25	火	神山小学校	52		
37	10	27	木	和田小学校 6 年生●	132		
38	10	27	木	横浜学園高校	55	オリビン採集・石勾玉	○
39	10	27	木	五十市小学校	119		
40	11	1	火	備前中学校	27	オリビン万華鏡	
41	11	2	水	修学館中学校 3 年生	87	石勾玉	
42	11	10	木	指宿小学校 5 年生●	46	まちあるき	
43	11	18	金	丸野小学校	28	火おこし	
44	11	24	木	大野東中学校	41	オリビン万華鏡	○
45	11	30	水	春日西中学校	19	石勾玉	
46	12	20	火	指宿養護学校	7	消しゴム勾玉	
47	1	14	土	魚見小学校 3 年生●	20	昔の道具	
48	1	19	木	川尻小学校 3 年生●	11	昔の道具	
49	1	23	月	開聞小学校 3 年生●	27	昔の道具	
50	1	27	金	指宿小学校 3 年生●	53	昔の道具	
51	3	8	水	玉龍中学校 1 年生	14	石勾玉・あんざん	
合計					1905		

③平成 29 年度市内出前授業・体験等実績

	月	日	曜日	学校名	人数	体験学習 (記載のない団体は見学のみ)
1	4	27	水	開聞中学校 1～3 年生	128	オリビン万華鏡
2	5	9	月	南指宿中学校	4	職場体験～13日(金) 石勾玉・あんざん
3	5	16	月	北指宿中学校	4	職場体験～20日(金)
4	5	16	月	西指宿中学校	1	オリビン万華鏡
5	6	17	金	丹波小学校 4 年生	6	夢探しの旅
6	6	23	木	ふれあいミニサロン	21	オリビン万華鏡
7	8	4	木	魚見校区公民館	27	キーホルダー
8	8	9	火	みどり幼稚園	22	オリビン万華鏡
9	8	20	土	ジュニア学芸員養成講座	8	橋牟礼川遺跡について
10	8	27	土	ジュニア学芸員実習	5	展示解説
11	9	5	月	宮ふれあいデイ	17	オリビン万華鏡
12	9	10	土	浜児ヶ水集落	30	オリビン万華鏡
13	9	21	水	利永スマイルサロン	17	あんざん
14	10	7	金	北指宿中学校	17	オリビン万華鏡
15	10	11	火	川尻小学校 6 年生	10	大地のなりたち
16	10	17	月	柳田小学校 6 年生	70	大地のなりたち
17	10	26	水	山川中学校家庭教育学級	16	石勾玉
18	11	3	木	指商デパート	52	オリビン万華鏡
19	12	8	木	山川小学校	18	絵付け
20	1	8	日	なのはなマラソン	44	オリビン万華鏡
21	1	19	木	柳田小学校 3 年生	71	昔の道具
22	2	9	木	中福良高齢者サロン	7	オリビン万華鏡
合計					595	



キャリアスタートウィーク 文化財看板の清掃



キャリアスタートウィーク 展示解説



地層の成り立ち 解説の様子



火おこし体験の様子

## 2. 後援・共催・協賛事業及び施設利用の部

### (1) 指宿まるごと博物館実行委員会への活動支援

平成 26 年度から 28 年度の 3 か年継続事業として、文化庁の「文化遺産を活かした地域活性化事業」により、市内の郷土芸能・伝統行事・有形文化財の映像記録保存を行い、DVD「指宿文化遺産デジタル図鑑」を制作した。合わせて記録内容をまとめた冊子「指宿文化遺産図鑑」を出版した。平成 29 年度からは以下の事業を実施した。

#### ■人材育成事業

「指宿市文化遺産を活かしたまち歩きおよびガイド育成事業」（平成 30 年 2 月 18 日 参加者 20 名）指宿市観光協会と連携し、市民を対象にボランティアガイドが文化遺産を巡るまち歩きイベントを実施。ガイドマップを活用した。

#### ■指宿市伝統文化後継者育成事業

指宿市郷土芸能保存会が各郷土芸能保存会の会長等を対象に、各保存会の現状把握と課題を認識・整理し、課題解決方法について学ぶ講習会を開催。「後継者不足」と「保存会の維持・継承」の課題解決に取り組む人材育成を目標とした。

#### ■指宿市伝統文化用具等整備事業

郷土芸能・伝統行事の衣装を新調。平成 29 年度は指宿市にある 32 保存会のうち、6 つの保存会で衣装の整備（新調）を実施した。

## (2) 時遊館 COCCO はしむれ友の会活動支援

時遊館 COCCO はしむれ友の会は、指宿市考古博物館 時遊館 COCCO はしむれを中心とした様々な学習活動、ボランティア活動を通じ、指宿市の歴史と文化を学び、会員の自己研鑽を行うこと、同時に地域における歴史・文化学習のネットワークを形成し、会員相互の交流を深めることを目的とする会であり、会員数は現在約 70 人である。平成 29 年度は下記の活動支援を行った。

■はしむれ友の会春の遠足「池田地区文化財めぐり」(2月17日)

池田湖周辺の馬頭観音、鳥越堀切等文化財案内を行った。

■はしむれ友の会秋の研修旅行「長崎・島原研修」(10月7日・8日)

長崎・島原の文化財と世界遺産軍艦島、田原坂歴史資料館の見学に同行した。

## (3) 市民講座「まちの宝を知ってみよう」

市の生涯学習事業である市民講座への講師協力。5月～10月の第2・第4木曜日開催、全9回。

	期日	分野	講師	テーマ
第1回	5月18日	文化	鎌田 洋昭	指宿のめずらしい伝統行事について
第2回	6月1日	文化	西牟田 瑛子	指宿を舞台とする神話・伝承を紐解く
第3回	6月15日	自然	松崎 大嗣	ソテツ自生地の北限指宿！ソテツと人との関わり
第4回	7月9日		鎌田 洋昭	フィールドワーク「自然と大宮姫伝説・龍宮伝説を楽しもう！」
第5回	8月3日	植物	西牟田 瑛子	指宿植物産業史
第6回	8月17日	歴史	鎌田 洋昭	西郷隆盛と指宿とのつながりについて
第7回	8月31日	産業	松崎 大嗣	テルマエ・イブスキ お風呂文化の多様性
第8回	9月14日	考古	西牟田 瑛子	古代人北へ南へ-モノから探る交流-
第9回	10月5日	考古	松崎 大嗣	墓の考古学-古代人の終活事情-

## (4) 展示会の開催

①第 28 回いぶすきシルバー美術展 (7月30日～8月16日 入場者 1,319 名)

県内の 60 歳以上の方なら誰でも応募資格をもつユニークな絵画公募展。今回は 174 点の作品が集まり、最高齢出展者 97 歳であった。指宿市・指宿市教育委員会・指宿市文化協会による開催。

②学校教育課主催「理科作品展」「図画作品展」(9月5日～9月13日 入場者 65 名)

学校教育課主催「社会科作品展」(9月17日～9月22日 入場者 76 名)

市教育委員会学校教育課主催の、市内の児童・生徒が夏季休業期間に作成した自由研究や図画作品の受賞作を展示する展示会。

③鹿児島県立指宿養護学校・地域福祉課主催「チャレンジ絵画展」(1月22日～1月29日)

鹿児島県立養護学校の児童・生徒たちの絵画作品等の展示会。

## (5) いぶすき検定への協力

指宿商工会議所主催の小学校 5・6 年生と中学校 1・2 年生を対象とした「いぶすきジュニア検定」と、一般を対象とした「いぶすき検定」の初級・中級・上級の問題作成を行うとともに、直前講習会の講師を務めた。

## (6) 指宿市観光協会への協力

指宿市観光協会等が指宿市と南九州市穎娃地区を舞台にして実施した体験型イベント「きら★旅」へプログラムを提供し、その実施に協力した。プログラム内容は、博物館で行っている「オリビン万華鏡体験」をベースとした「美しい指宿の海が生んだ火山の宝石 オリビンと星砂・光る砂の万華鏡づくり」である。

## (7) いぶすき大好き体験事務局への協力

いぶすき大好き体験事務局では、世界でもめずらしい天然砂蒸しの体験をはじめ、いぶすき広域ならではの自然・資源・人的資源を最大限に活かした農林業体験や漁業体験、自然体験、味覚体験など魅力的なプログラムを準備している。修学旅行シーズンにおいて、博物館で実施している「オリビン採集体験」を川尻海岸等で実施し、「オリビン万華鏡体験」を館で行うなどの協力を行った。平成 28 年度は 11 校の利用があった。

## 3. 発掘調査・整理作業の部

### (1) 市内遺跡確認調査

市内各所における開発対応に伴う遺跡の確認調査を、下記の通り実施した。敷領遺跡については、調査が年度末であったことから、調査成果を平成 29 年度市内遺跡発掘調査報告書へ掲載することができなかつたため、翌年度の報告書へ掲載する予定である。また今和泉島津家墓地の確認調査を実施した。

遺跡名	所在地	調査機関	面積	調査原因	主な遺構	主な遺物	備考
大園原遺跡	西方大園原	8月10日	3㎡	公共事業	—	—	—
松尾城跡	西方城ヶ崎	1月16日～ 1月17日	3,250㎡	縄張り図作成	空堀、曲輪、土塁	—	市指定史跡
敷領遺跡	十町	3月12日～ 3月14日	9㎡	公共事業	土坑、ピット	成川式土器	—
今和泉島津家墓地	岩本	11月28日～ 12月23日	6.12㎡	学術調査	近世墓・石垣造成遺構	陶磁器・瓦鉄釘他	市指定史跡

## 4. 文化財保護管理の部

### (1) 文化財防火デー

■市指定文化財・木造聖観音立像三体：平成 30 年 1 月 28 日

■県指定文化財・枚聞神社本殿：平成 30 年 1 月 26 日

地域住民、自衛消防隊、消防団や消防署等関係機関参加のもと、久保観音堂から出火、堂内の木造仏にも延焼の恐れがあるとの想定、及び枚聞神社社務所から出火し、宝物殿及び拜殿棟への延焼の恐れがあるとの想定で防火訓練を実施し、文化財保護活動の大切さについて理解・協力を求めた。

### (2) 指定文化財等の保護

#### ①文化財パトロール

市内指定文化財や周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の巡回パトロールを行った。また、台風災害後に

指定文化財の被害状況調査も実施し、被害があった文化財については南薩教育事務所、県文化財課へ報告を行った。

## ②文化財看板設置

経年劣化位していた市指定文化財「鰻地藏板碑」の説明看板・標柱の設置、国指定天然記念物ソテツ自生地の説明看板の設置をおこなった。当文化財の所在地は、国が定める自然公園内に位置していたため、所定の看板設置申請を行った上で設置した。

## 5. 刊行物・研究活動の部

### (1) 刊行物

#### ■『橋牟礼川遺跡（Ⅵ区・Ⅶ区）』

平成28年度から図面整理や遺物整理作業を進めてきた昭和61～62年に実施された橋牟礼川遺跡（Ⅵ区・Ⅶ区）の調査成果をまとめた発掘調査報告書を刊行した。

#### ■『平成29年度市内遺跡発掘調査報告書』

平成29年度に実施した大園原遺跡等の確認調査と遺跡の記録保存を行った。

### (2) 学会発表・講演会発表・論文発表等

■中摩浩太郎 2017「貞観16年開聞岳噴火と火山災害の実態」『一般社団法人日本考古学協会 2017年度宮崎大会資料集』pp.53 - 62（口頭発表 2017年10月22日）

第28回 いぶすき  
シルバー美術展 公募

会場 時遊館COCCOはしむれ  
(指宿市考古博物館) **入場無料**

会期 平成29年7月30日(日)～8月16日(水)

●搬入期間 / 平成29年7月6日(金)～7日(土) ●出品料 / 2,000円(1点につき)1人2点まで  
●出品作品 / 日本画(水画を含む)、洋画(油絵・水彩画・版画)、押し花絵、ちぎり絵、和紙はり絵、切り絵(工芸・立体作品を除く)

お問い合わせ及び  
応募要項請求先 いぶすきシルバー美術展実行委員会事務局(時遊館COCCOはしむれ内)  
〒891-0403 指宿市十二町2290番地 TEL(0993)23-5100

主催 / 指宿市・指宿市教育委員会・指宿市文化協会

第28回いぶすきシルバー美術展 公募ポスター



文化財防火デー 枚間神社



敷領遺跡 確認調査の様子

# 平成 30 年度各事業の実施状況

## 1. 博物館事業の部

### (1) 企画展・体験学習・講座等

#### ①特別企画展「西郷隆盛と海洋国家薩摩—明治維新へ指宿が果たした役割—」

(平成 29 年 10 月 14 日～平成 31 年 3 月 17 日)

昨年に引き続き、今年も NHK 大河ドラマ「西郷どん」の放送に関連した企画展を実施した。本企画展は長期にわたったため、展示品の入れ替えを複数回行っている。展示品の入れ替えの内容は以下の通りである。

関連資料	借品・展示品	施設名等
瀨崎太平次関連資料	指宿本宅略図・鹿児島屋敷図・手形箱・瀨崎家系図	鹿児島県歴史資料センター黎明館
西郷隆盛関連資料	肖像画・直筆書・のこぎり・脚絆・キセル・筆・携帯筆・四書五経	鹿児島市立西郷南洲顕彰館
	直筆書	個人
西南戦争関連資料	洋式銃・銃剣・銃弾・弾薬箱・四斤砲弾・臼砲弾・霰弾子・陣笠・脚絆・碗・錦絵・古写真・戦傷写生図	熊本市教育委員会・熊本市田原坂西南戦争資料館・熊本市立熊本博物館・熊本城調査センター

#### 【関連イベント】

#### ■はしむれ学芸員講座 (全 2 回, 聴講者計 32 人)

市民を対象に指宿まるごと博物館構想推進の一環として、企画展に関連した歴史講座とフィールドワークを開催した。

開催日	講座名	内容	講師	聴講者数
12月16日	西郷隆盛・西南戦争と指宿について	資料調査時の裏話を紹介	鎌田 洋昭 (当館学芸員)	24
2月18日	フィールドワーク	江戸時代の公共工事と西南戦争に関する史跡等を巡るまち歩き	鎌田 洋昭 (当館学芸員) いぶすき西郷どんガイド会	16

#### ②ゴールデンウィークイベント「はしむれ子どもまつり」(5月3日～5月5日 体験者 114 人)

ゴールデンウィーク限定イベントとして、常設展示室の展示品などをモデルとしたミニチュア土器を土から発掘する「ミニ土器発掘体験」やシカの角を削って作る「シカの角アクセサリー作り体験」、貝殻で小物入れを作る「貝殻デコパージュ体験」を実施した。人気の体験には会館前から列ができることもあり、子どもたちからは「普段できない体験ができて楽しかった。また来年もやりたい」との声も聞かれた。

④常設展関連イベント「ナイトミュージアム 2018 ～博物館からの挑戦状～」

(8月4日 参加者 24人)

普段見ることのできない夜の博物館観覧体験を楽しんでもらうため実施した。懐中電灯の灯りを頼りに展示品を観察し、展示室各所に設置したクイズに答えるイベントをおこなった。参加者には、蓄光粘土で作った勾玉がプレゼントされた。参加者の中には、京都から帰省中の児童もおり、初対面の指宿市在住の児童たちと協力しながら問題を解く姿がみられた。

⑤「ANIMAL LIFE 展」

(9月22日～9月30日、観覧者 1,248人) ※観覧無料

指宿市出身の人形作家朝隈俊男氏の作品展として、様々なポーズを取る表情豊かな動物たちのフィギュアを展示した。

【関連イベント】

■朝隈俊男・石粉粘土教室 (9月22日～9月24日 参加者 52人)

石粉粘土を使用して西郷どんにまつわる動物キャラクター作りを実施した。

⑥ミニ企画展「篤姫のひなまつり展」

(2月1日～3月24日) ※観覧無料

ひな祭りに合わせてひな人形や土人形などを展示した。

【関連イベント】

■つまみ細工のアクセサリ作り体験 (3月3日 参加者 38人)

江戸時代に生まれた手工芸技術である「つまみ細工」を応用した体験をおこなった。今回はつまみ細工の基本形である「丸つまみ」と「剣つまみ」からアクセサリを作成した。

⑦学びのふるさと講座 (全5回、聴講者計 163人)

自然・歴史・考古・産業など様々な分野の専門家を招き、講座を開催することで、市民が生涯を通じて学び、その学習効果や能力をまちづくりに生かし、潤いと活力のある郷土の実現を図ること、そして「指宿まるごと博物館」の素材の活用、市民の文化財愛護精神の醸成を図ることを目的とした講座を全5回開催した。

	開催日	テーマ	講師	聴講者数
1	6月23日	古墳時代の食生活	大西智和 氏 鹿児島国際大学国際文化学部教授	13
2	7月22日	橋牟礼川遺跡から出土する土器を作ろう！	四元誠 氏 琴鳴堂	24
3	8月25日	橋牟礼川遺跡発掘史	本田道輝 氏 鹿児島県考古学会会長・元鹿児島大学法文学部教授	30
4	10月27日	西郷隆盛と指宿	東川隆太郎 氏 NPO 法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会理事	64

5	12月8日	薩英戦争の考古学-薩摩藩の海防と台場-	新田栄治 氏 鹿児島大学名誉教授	32
---	-------	---------------------	---------------------	----

### ⑧スター・ウォッチング（全4回、参加者計122人）

季節ごとに開催している星空観察会。当館所有の天体望遠鏡を用いて、季節の星座とその動きを観察し、天体に興味・関心を持ってもらうことを目的としている。

	開催日	星座や星の観察内容	講師	参加者
1	5月12日	春の星座と木星を見よう！	当館学芸員	4
2	8月11日	天の川に広がる夏の星座と土星の輪を天体望遠鏡で見てみよう！	当館学芸員	78
3	10月6日	中止	当館学芸員	雨天中止
4	2月9日	冬の星座探し、スバル・月・火星を天体望遠鏡で見てみよう！	森永 成一	40

### ⑨はしむれジュニア学芸員養成講座（2月3日 受講者9人）

小学5年生～中学2年生を対象に、時遊館 COCCO はしむれのジュニアガイドの養成講座を実施した。平成27年度から3回目の開催。講座修了後には、年間パスポートを兼ねた「はしむれジュニア学芸員カード」を発行した。また、実践として、来館者への常設展示室の解説案内を行った。

## （2）学習支援活動

来館者に対する学習支援の他、職場体験学習の受け入れ、市内各小学校の総合的な学習の時間の支援を実施している。

### ①キャリア・スタート・ウィーク

市内の中学2年生を対象とした職場体験学習の受け入れを行った。期間は例年5月のうち5日間であり、受け入れ人数は南指宿中学校生徒3人である。体験内容として、常設展示室の解説案内を中心に、勾玉作り等の体験学習や、土器の洗浄、観察作業、文化財パトロールを行った。

### ②平成30年度小・中・高等学校博物館利用実績（●：市内）

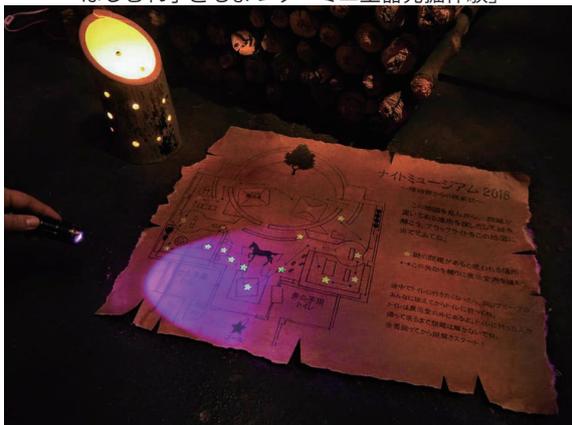
	月	日	曜日	学校名	人数	体験学習 (記載のない団体は見学のみ)	指宿大好き 体験
1	4	12	木	志学館中等部	105	石勾玉	
2	4	13	金	徳光小学校●	7		
3	4	19	木	指宿小学校●	50		
4	4	20	金	柳田小学校●	65		
5	4	25	水	今和泉小学校●	13		
6	4	26	木	川尻小学校●	8	消しゴム勾玉	
7	4	27	金	池田小学校●	16	石勾玉	
8	5	1	火	川辺小学校	61	石勾玉	
9	5	10	木	池田中学校	75	オリビン万華鏡	○
10	5	10	木	嬉野中学校	43	オリビン万華鏡	○
11	5	10	木	菓子野小学校	21		
12	5	12	土	丹波小学校●	90	火おこし	
13	5	16	水	南種子町立7校合同小学校	63	石勾玉	
14	5	17	木	塩田中学校	18	オリビン万華鏡	○



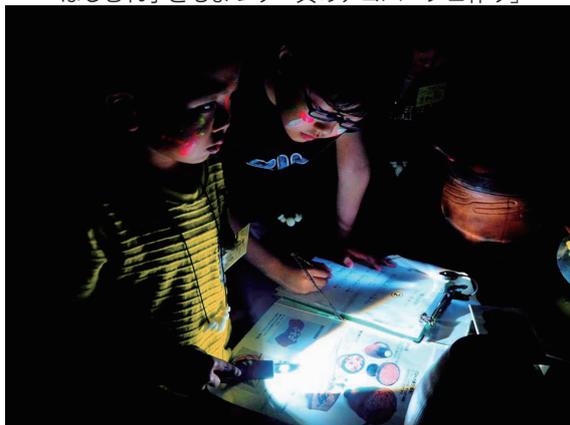
はしむれ子どもまつり「ミニ土器発掘体験」



はしむれ子どもまつり「貝のデコパージュ作り」



ナイトミュージアム 2018「博物館からの挑戦状」



ナイトミュージアム 2018「博物館からの挑戦状」



朝隈俊男石粉粘土教室「西郷どんにまつわる動物作り」



キャリアスタートウィーク 展示解説



特別企画展 5万人来場記念



篤姫のひな祭り

A dark-themed illustration for a night museum event. It features three children in the center, one holding a flashlight. The background is filled with various museum exhibits like a dinosaur, a rooster, a deer, a dog, and a shell, all depicted in a stylized, glowing manner. The text is in white and yellow, providing event details.

じゅう かん  
時遊館 COCCO はしむれ

# ナイトミュージアム2018

## 博物館からの挑戦状

普段見ることのできない夜の  
博物館を楽しもう！暗闇の中で  
懐中電灯の灯りを頼りに展示品を  
観察し学芸員が考えたクイズに  
答えることができるかな？

# 8.4 SAT 土

時間 19:00~20:30 場所 時遊館 COCCO はしむれ 対象 小・中学生 保護者同伴可  
参加料 1人300円 (保護者の方が随行する場合は別途入場料金が必要です) 持参するもの タオル・水筒  
限定 20人 申込開始日 7.10 申込方法は電話か窓口にて (0993) 23-5100

ナイトミュージアム 2018～博物館からの挑戦状～ ポスター

	月	日	曜日	学校名	人数	体験学習 (記載のない団体は見学のみ)	指宿大好き 体験
15	5	23	水	多津美中学校	32	オリビン万華鏡	○
16	5	23	水	大和村4校合同小学校	34		
17	5	24	木	内之浦小学校	23		
18	5	24	木	永化女子商業高等学校	10	オリビン万華鏡	
19	6	8	金	丹波小学校●	14		
20	6	21	木	開聞小学校●	22		
21	9	5	水	筑紫野南中学校	41	オリビン万華鏡	○
22	9	6	木	伊万里中学校	42	オリビン万華鏡・石勾玉	○
23	9	7	金	大野東中学校	43	オリビン万華鏡	
24	9	8	土	魚見小学校●	14		
25	9	12	水	筑紫野中学校	78	オリビン万華鏡	○
26	9	13	木	平野中学校	81	オリビン万華鏡・石勾玉	○
27	10	11	木	武雄中学校	58	オリビン万華鏡・石勾玉	○
28	10	23	火	昭和第一高等学校	43	オリビン万華鏡	○
29	11	1	木	五十市小学校	118		
30	11	8	木	川東小学校	49		
31	11	9	金	修学館中学校	68		
32	11	13	火	指宿小学校●	24		
33	11	15	木	丸野小学校	25	火おこし	
34	11	15	木	小林小学校	128		
35	12	3	月	山川開聞特別支援学級●	35		
36	12	6	木	指宿養護学校高等部	26	キーホルダー作り	
37	12	13	木	昭和高等学校	29	オリビン万華鏡	

③平成30年度市内出前授業実績

	月	日	曜日	学校名	人数	体験学習 (記載のない団体は見学のみ)
1	5	16	水	魚見小学校	14	昔の道具・火おこし
合計					14	

2. 後援・共催・協賛事業及び施設利用の部

(1) 時遊館 COCCO はしむれ友の会支援活動

時遊館 COCCO はしむれ友の会は、指宿市考古博物館 時遊館 COCCO はしむれを中心とした様々な学習活動、ボランティア活動を通じ、指宿市の歴史と文化を学び、会員の自己研鑽を行うこと、同時に地域における歴史・文化学習のネットワークを形成し、会員相互の交流を深めることを目的とする会であり、会員数は現在 85 人である。平成 30 年度は下記の活動支援を行った。

■はしむれ友の会春の遠足「池田地区の文化財めぐり」(5月19日)

池田地区の文化財(池王明神・刻み地蔵)をめぐるまち歩きを実施した。

■はしむれ友の会秋の研修旅行「出水市文化財めぐり」(10月6日)

出水市周辺の文化財見学を実施。出水麓歴史館、感応禅寺、薩州島津家墓地などの見学を行った。

## (2) 市民講座「まちの宝を知ってみよう」

市の生涯学習事業である市民講座への講師協力。5月～10月の第2・第4木曜日開催、全9回。

	期日	分野	講師	テーマ
第1回	5月15日	自然	鎌田 洋昭	指宿の火山の魅力と楽しみ方について
第2回	6月19日	産業	松崎 大嗣	日本の煙草文化は指宿から始まった！
第3回	7月17日	歴史	鎌田 洋昭	中世の信仰と石造文化
第4回	9月18日	民族	鎌田 洋昭	いぶすきの郷土芸能と伝統行事
第5回	10月16日	歴史	松崎 大嗣	橋牟礼川遺跡発掘 100 年-日本考古学の黎明期を紐解く-
第6回	10月28日		鎌田 洋昭	フィールドワーク
第7回	11月20日	文化	中摩 浩太郎	カマドの文化史
第8回	12月18日	自然 / 産業	松崎 大嗣	指宿ゴールドラッシュヒストリー-指宿の金山-
第9回	1月15日	歴史	中摩 浩太郎	西南戦争と指宿

## (3) 展示会の開催

### ■第 29 回いぶすきシルバー美術展（11 月 25 日～12 月 12 日 入場者 1,617 名）

県内の 60 歳以上の方なら誰でも応募資格をもつユニークな絵画公募展。今回は 165 点の作品が集まり、最高齢出展者 93 歳であった。今回のシルバー美術展は時遊館 COCCO はしむれ内でいぶすき西郷どん館が開催されたことから、展示会場をふれあいプラザなのはな館に設けて展示を行った。指宿市・指宿市教育委員会・指宿市文化協会による開催。

## (4) いぶすき検定への協力

小学校 5・6 年生と中学校 1・2 年生を対象とした「いぶすきジュニア検定」と、一般を対象とした「いぶすき検定」の初級・中級・上級の問題作成を行うとともに、直前講習会の講師を務めた。

## (5) 指宿市観光協会への協力

指宿市観光協会等が指宿市と南九州市穎娃地区を舞台にして実施した体験型イベント「きら★旅」へプログラムを提供し、その実施に協力した。プログラム内容は、博物館で行っている「オリビン万華鏡体験」をベースとした「美しい指宿の海が生んだ火山の宝石 オリビンと星砂・光る砂の万華鏡づくり」である。

## (6) いぶすき大好き体験事務局への協力

いぶすき大好き体験事務局では、世界でもめずらしい天然砂蒸しの体験をはじめ、いぶすき広域ならではの自然・資源・人的資源を最大限に活かした農林業体験や漁業体験、自然体験、味覚体験など魅力的なプログラムを準備している。修学旅行シーズンにおいて、博物館で実施している「オリビン採集体験」を川尻海岸等で実施し、「オリビン万華鏡体験」を館で行うなどの協力を行った。平成 28 年度は 11 校の利用があった。

## 3. 発掘調査・整理作業の部

### (1) 市内遺跡確認調査

市内各所における開発対応に伴う遺跡の確認調査を、下記の通り実施した。

遺跡名	所在地	調査機関	面積	調査原因	主な遺構	主な遺物	備考
敷領遺跡 (15次)	指宿市十町 敷領	8月10日	3㎡	公共事業	—	—	—
敷領遺跡 (16次)	指宿市十町 敷領	8月16日～10 月31日	150㎡	集合住宅の建設	掘立柱建物 跡、畠	土師器、須 恵器	—
敷領遺跡 (17次)	指宿市十町 敷領	9月13日～ 9月18日	66㎡	特別養護老人 ホームの増築	溝跡	須恵器	—
成川遺跡 (3次)	指宿市山川 成川	5月21日	6㎡	特別養護老人 ホームの建築	—	—	—
成川遺跡 (4次)	指宿市山川 成川	5月21日	4㎡	社員寮の建設	—	—	—
下吹越遺跡 (2次)	指宿市西方	5月29日	8㎡	排水路の建設	—	—	—

## (2) 橋牟礼川遺跡報告書作成

橋牟礼川遺跡西武土地地区画整理事業に伴う発掘調査（IV区）の整理作業を実施した。IV区は古墳時代の土器集中廃棄所が確認されており、大量の土器が出土していることから、本年は土器の選定作業、台帳との照合、実測図作成を進めた。今後の計画は平成31年度まで整理作業を継続し、平成32年度に報告書を刊行する予定である。

## (3) 今和泉島津家墓地発掘調査報告書作成

平成29年度に実施した今和泉島津家墓地の確認調査成果及び、平成27年度から平成30年度にかけて継続的に実施した、墓石や燈籠、六地藏塔等の詳細測量成果をまとめた報告書を刊行した。

# 4. 文化財保護管理の部

## (1) 文化財防火デー

■国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡史跡公園：平成31年1月26日

■枚聞神社：平成31年1月26日

地域住民、自衛消防隊、消防団や消防署等関係機関参加のもと、橋牟礼川遺跡史跡公園内の竪穴住居跡から出火、周辺家屋や公園内の樹木にも延焼の恐れがあるとの想定で防火訓練を実施し、文化財保護活動の大切さについて理解・協力を求めた。また、史跡公園の周辺に住む下里、丈六、向吉地区の住民に参加をいただきバケツリレーや消化器の取扱を学び、文化財保護に対する意識を高めるきっかけとなった。

枚聞神社では、社務所から出火し宝物殿及び拝殿棟への延焼の恐れがあるとの想定で防火訓練を実施し、文化財保護活動の大切さについて理解・協力を求めた。

## (2) 指定文化財等の保護

### ①文化財パトロール

市内指定文化財や周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の巡回パトロールを行った。また、台風災害後に指定文化財の被害状況調査も実施し、被害があった文化財については南薩教育事務所、県文化財課へ報告を行った。

### ②文化財看板設置

経年劣化位していた市指定文化財「松原田観音寺跡石塔群」の説明看板、平成30年2月に新たに市指定文化財に指定された「指宿邑捍海隄記碑」の説明看板の設置をおこなった。

**第29回 いぶすき  
シルバー美術展 公募**



第29回展覧会賞 (第6号) 賞 富士子 氏

**会場** ふれあいプラザなのはな館 **入場無料**  
(指宿市東方9300番地1 TEL 0993-23-1023)

**会期** 平成30年11月25日(日)～12月12日(水)  
9時～17時 (ただし、11月25日は12時から、12月12日は15時まで)

- 搬入期間 / 平成30年11月1日(木)～2日(金) ◎ 出品料 / 2,000円(1点につき)1人2点まで
- 出品作品 / 日本画(水墨画を含む)、洋画(油絵・水彩画・版画)、押し花絵、ちぎり絵、和紙はり絵、切り絵(工芸・立体作品を除く)

**お問い合わせ及び応募要項請求先** いぶすきシルバー美術展実行委員会事務局(時遊館COCCOはしむれ内)  
〒891-0403 指宿市十二町2290番地 TEL(0993)23-5100

主催 / 指宿市・指宿市教育委員会・指宿市文化協会

第 29 回いぶすきシルバー美術展 公募ポスター



学びのふるさと講座 本田道輝先生による講演



敷領遺跡発掘調査



はしむれ友の会 秋の研修旅行 出水市感応禅寺



京都大学考古学研究室 研修旅行



宮之前遺跡発掘調査



文化財防火デー 国指定史跡指宿橋牟礼川遺跡史跡公園

## 5. 刊行物・研究活動の部

### (1) 刊行物

■『今和泉島津家墓地埋蔵文化財発掘調査報告書』

平成 29 年度に実施した市指定史跡今和泉島津家墓地の発掘調査および過去に実施した石塔調査の成果をまとめた報告書を刊行した。

■『平成 30 年度市内遺跡発掘調査報告書』

平成 30 年度に実施した敷領遺跡、成川遺跡、下吹越遺跡の確認調査と遺跡の記録保存を行った。

### (2) 学会発表・講演会発表・論文発表等

■松崎大嗣 2018 「中岳山麓古窯跡群の分布調査」『九州考古学』第 93 号 133 - 142 頁 九州考古学会

■松崎大嗣 「開聞岳貞観噴火による災害とその後」隼人文化研究会 第 500 回記念大会（鹿児島県歴史資料センター黎明館講堂）2018 年 12 月 23 日

■松崎大嗣 「紫コラ直下の出土遺物」隼人文化研究会 第 503 回例会（鹿児島県歴史資料センター黎明館講堂）2019 年 3 月 10 日

■中摩浩太郎・松崎大嗣・鎌田洋昭・西牟田瑛子 2019 「開聞岳火山災害と対応の実態－7 世紀後半と 874 年の事例から－」『季刊考古学』第 146 号 67 - 70 頁 雄山閣

■中摩浩太郎 「田之畑にまつわるあれやこれやの話」田之畑地区成人講座 田之畑公民館  
2018 年 11 月 10 日

■鎌田洋昭 「指宿の歴史について」指宿警察署教養会議 指宿警察署 2018 年 10 月 10 日

■鎌田洋昭 「指宿まるごと博物館の魅力」第 26 回鹿児島県青色申告会連合会役職員研修会  
指宿いわさきホテル 2018 年 11 月 9 日

## 指宿秋山家伝来の色絵薩摩角形瓶

渡辺 芳郎（鹿児島大学法文学部）

## はじめに

本稿は、指宿の秋山家に伝来している色絵薩摩角形瓶について、筆者の観察結果を報告し、その歴史的な位置づけに関して若干の検討を試みるものである。

本資料が伝来した秋山家は、戦国時代は武田家に仕えたが、武田家滅亡後、薩摩に移住し、初代・土屋昌光が秋山に改姓したという。その後、五代・真成（1698-1771年）が、寛延2（1749）年から今和泉島津家に仕えるようになった（森田2014 pp.68-70）。ただし本角形瓶は、同じく今和泉島津家に仕えた家臣・辺見家からの嫁入りの際に秋山家へ伝わったとされる（深港恭子氏ご教示）。

## 1. 色絵薩摩角形瓶について

## (1) 外形・素地・釉薬・墨書

本資料は小型の直方体を呈している。胴部を長方形4枚、上面部と底部を正方形各1枚の粘土板を接合して作られている。上面部中央には口部が穿孔され、周囲に陽刻の花弁文（18弁）を貼り付けている。花卉文内の口唇部は無釉であるが、その表面は凹凸があって粗く、本来の口唇部ではなく、もともとその上部に別の口部が作られていたのを、のちに削り取った可能性も考えられる<sup>1)</sup>。口部には竹製の蓋が装着されている。素地は白色土で、表面に透明釉を掛ける。ただし底部は無釉で、墨書がある。釉薬表面には細かい貫入が全面に走っており、白薩摩の特徴を示す。法量は、総高：11.8cm、胴部高：11.1～11.2cm、口径：1.6cm、肩部：6.5×6.5cm、底部：6.5×6.5cmを測る（図1）。



図1 秋山家伝来色絵薩摩角形瓶

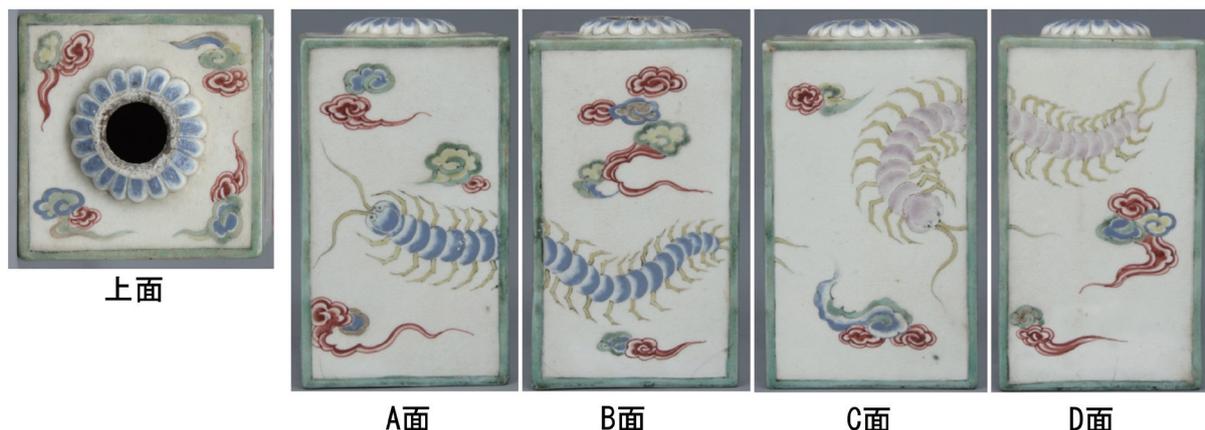


図2 色絵薩摩角形瓶の各面

内部には火薬状の黒粉が残っている。これが火薬かどうか未確認である。火薬瓶だから火薬と判断したか、火薬状のものが入っているから火薬瓶としたかは不明である。本稿では用途ではなく器形に即して角形瓶と呼ぶ。

底部の墨書から、「忠喬君」<sup>2)</sup> (今和泉島津家四代当主・島津忠喬、1799-1861年) より、「文久元稔(年)」(1861)の「雨月上九日」(旧暦5月9日)に、「玉江邸」において拝領したことがわかる。署名にある「佳長」の名は、秋山家の当主には見られず(森前掲)、辺見家の人物の可能性もある。また冒頭の「御隠居」も島津忠喬を指す可能性と、「佳長」にとっての御隠居を指す可能性の両方が考えられる。「玉江邸」とは、今和泉島津家当主の隠居宅を指しており、現在の指宿市岩元にある豊玉姫神社の北側に所在したという(鎌田洋昭氏ご教示)。本角形瓶は同邸において今和泉忠喬から拝領したことがわかる。

以上のように曖昧な部分も多く残すが、この墨書の内容に信を置けば、本角形瓶は1861年以前に製作されたものと考えられる。また島津宗家に次ぐ「一門」四家の一つである今和泉島津家当主からの拝領であることは、商品として流通したものではなく、贈答品・下賜品などの性格を有していたと考えられる。

## (2) 上絵付けの文様と色彩

本資料は、透明釉の表面に上絵付けが施された、いわゆる色絵薩摩<sup>3)</sup>である。以下、上絵付けの文様と色彩については、便宜上、上面・A～D面に分けて記述したい(図2)。

本資料に描かれているのは百足文2体と雲文であり、前者が主文様と考えられる。文様の概要は以下の通りである。

上面：口縁部周辺に陽刻花卉文(18弁)青彩。四隅に雲文4組。

A面：百足文1前半(胴部青+黒、足・触覚黄色+黒)。雲文3組。

B面：百足文1後半(同上)。雲文2組。

C面：百足文2前半(胴部紫、足・触覚黄色+黒)。百足文1の触覚端部。雲文2組。

D面：百足文2後半(同上)。百足文2の触覚端部。雲文2組。

また各面の境界となる角部は、内側のみ黒線で縁取られた緑線が施されている。

以下、各文様の形態と色彩について詳述する。なお説明の便宜上、各文様を図3のように分類する。

### ①百足文1

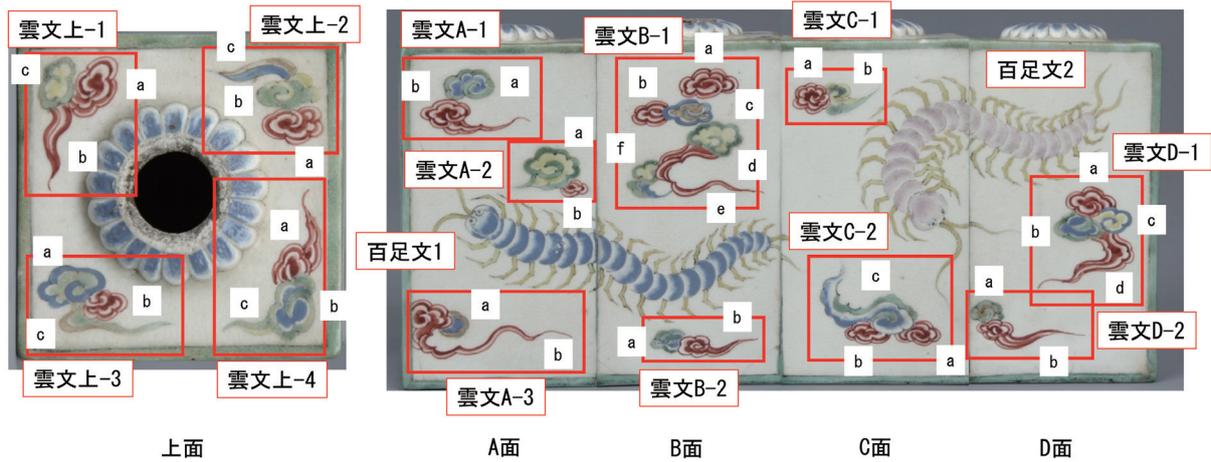


図3 各面における文様の分類

全体にゆるいS字状を呈する。胴部は黒い輪郭線で各体節（20節）を描き、中を青色で埋め、濃淡で立体感を出す。頭部は全体の円形内部にさらに小円形を描き、やはり濃淡で立体感を出す。頭部先端には半円形の目が2つ描かれている。歩肢は、黒い輪郭線と黄色で描かれ、左右ともに19脚（ともに前向8、後向11）である。触覚一対、尾脚（曳航肢）一対も黒の輪郭線と黄色で描かれているが、頭部の触覚表面には斜めの黒線が節状に描かれている。

②百足文2

胴部中央で屈曲し、全体でC字状を呈する。胴部は紫で描かれ、楕円形の各体節（22節）の輪郭は、細い紫色の線で描かれる。各体節は濃淡がつけられ、立体感を出している。頭部は全体の円形内部にさらに小円形を描き、やはり濃淡で立体感を出す。両眼は黒線で縁取られ、瞳は濃い緑ないしは黒で点描される。薄い緑色が周囲に滲み出している。歩肢（右22脚（前向12、後向10）、左17脚（前向8、後向9））および尾脚（曳航肢）一対は黒の輪郭線と黄色で描かれている。頭部先端の触覚一対も同じであるが、触覚表面に斜めの黒線が節状に描かれている。触覚と頭部の間に黒点が2つあるのは口部あるいは顎部であろうか。

③雲文

雲文はその形態から「雲塊タイプ」と「流雲タイプ」、雲塊と流雲がひと連なりとなった「雲塊+流雲タイプ」の三種に分けられ（図4）、それぞれ22、6、9例ある（合計37例）。彩色は、すべて赤色で描かれるタイプ（18例）、青色・緑色・黄色・淡褐色<sup>4)</sup>の4色のうち、2色あるいは3色を組み合わせた多色タイプ（19例）がある（ただし3色は1例のみ）（表1）。赤色タイプの雲文には、濃い赤色と薄い赤色とが併用され、後者を前者周囲のぼかしとして描くことで、立体感を生み出している。多色タイプでは輪郭線は黒色で描かれる。また両タイプとも着色部分の間に空隙を残すことで、素地を

表1 各面における雲文

面	雲文	雲塊	流雲	雲塊+流雲	計
上	多色	4	3		7
	赤	3	1	1	5
	小計	7	4	1	12
A	多色	2		1	3
	赤	1		2	3
	小計	3		3	6
B	多色	3		1	4
	赤	2	1	1	4
	小計	5	1	2	8
C	多色			2	2
	赤	3			3
	小計	3		2	5
D	多色	3			3
	赤	1	1	1	3
	小計	4	1	1	6
小計	多色	12	3	4	19
	赤	10	3	5	18
合計		22	6	9	37

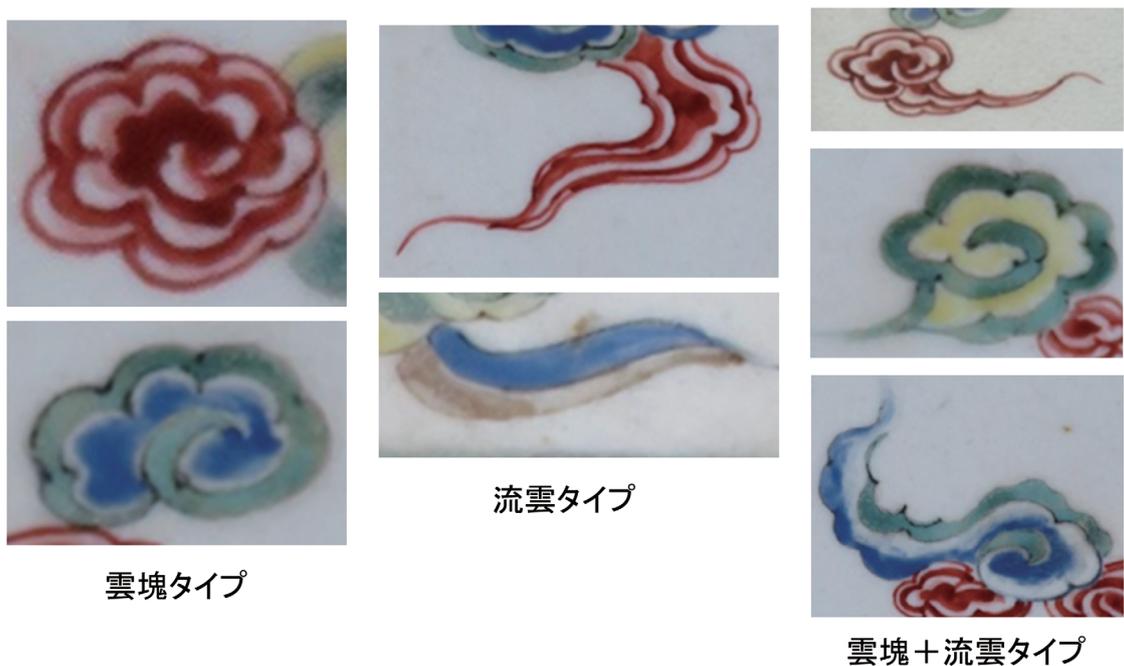


図4 雲文の分類

「白色」として用いている。

雲文はこれら形態3タイプ、配色2タイプのものが、複数(2~6)まとまることで、一つの単位を構成している。上面4組、A面3組、B~D面各2組、計9組よりなる(図3)。各組の色彩・形態タイプは表2の通りである。

多色タイプの雲文における色の組み合わせは、「青+緑」「緑+黄」「青+褐」「青+黄」「緑+褐」「青+緑+黄」の6種類があり、その出現頻度は表3のとおりである。ただし雲塊タイプでは、たとえば「青+緑」の同じ組み合わせでも、外側:青+内側:緑もあれば、逆の場合もある。組み合わせとしては「青+緑」と「緑+黄」がそれぞれ6例ともっとも多く、他の組み合わせは、3例以下である。

多色タイプの雲文と赤色雲文の数と比べると、全体として、また各面においても、両者はほぼ同数であることがわかる(表1)。また雲文の形態を無視して、色のみで各面の出現頻度を見ると(表4)、上面を除き、A~D面では、赤と多色がほぼ同数で、さらに各面で青・緑・黄色・褐色がほぼ同数配されていることがわかる。

以上のように赤色・多色タイプの雲文は、各面で使用される色の頻度に一定の規則性が存在していた可能性を示唆する。もちろんわずか1例のみ観察結果であるから、画工の個人的な判断の結果である可能性もあり、さらには単なる偶然の可能性もある。ただ佐賀藩の鍋島焼には、文様などを細かく描いた図案帳が伝わっていること(鍋島藩窯調査委員会編1954、小木2000)を考えあわせると、同じ藩窯である豎野窯にも、配色指定を含めた同じような図案帳ないしは模本が存在していたと想像することも、あながち無理なことでもないであろう。今後、図案帳・模本の存在を視野に入れた検討が必要である。

### (3) 百足文について

百足(蜈蚣)は、現在では害虫として嫌われ、また俵藤太(藤原秀郷)による大百足退治の説話にあるようにネガティブな印象がある。その一方、毘沙門天の使いともされ、毘沙門天が戦国時代において武神・軍神として崇拝されたことから、また百足の攻撃性や毒などから、武勇のシンボルとして、武家の間ではポジティブなイメージも持たれていた。それゆえ元の百足の形態をもとにした百足文など

表2 各面・各組における雲文の配色

面	雲文No.	単位	赤色	青色	緑色	黄色	淡褐色	輪郭線	タイプ	
上面	上-1	a	●					赤	雲塊	
		b	●					赤	流雲	
		c			外	内		黒	雲塊	
	上-2	a	●					赤	雲塊	
		b			●	●		黒	雲塊	
		c		●			●	黒	流雲	
	上-3	a		外	内			黒	雲塊	
		b	●					赤	雲塊	
		c			●		●	黒?	流雲	
	上-4	a	●					赤	雲塊+流雲	
		b		内	外			黒	雲塊	
		c			●	●		黒	流雲	
A面	A-1	a		内	外			黒	雲塊	
		b	●					赤	雲塊+流雲	
	A-2	a			外	内		黒	雲塊+流雲	
		b	●					赤	雲塊	
	A-3	a		内			外	黒?	雲塊	
		b	●					赤	雲塊+流雲	
B面	B-1	a	●					赤	雲塊	
		b	●					赤	雲塊	
		c		外			内	黒	雲塊	
		d			外	内		黒	雲塊	
		e	●					赤	流雲	
		f		●	●	●		黒	雲塊+流雲	
	B-2	a		内	外			黒	雲塊	
		b	●					赤	雲塊+流雲	
	C面	C-1	a	●					赤	雲塊
			b			●	●		黒	雲塊+流雲
C-2		a	●					赤	雲塊	
		b	●					赤	雲塊	
c		●	●			黒・青?	雲塊+流雲			
D面	D-1	a	●					赤	雲塊	
		b		内	外			黒	雲塊	
		c		外		内		黒	雲塊	
		d	●					赤	流雲	
	D-2	a			外		内	黒	雲塊	
		b	●					赤	雲塊+流雲	

が作られた(図5)。本資料の百足文も、百足からの直接的な描写ではなく、百足文の一つとして描かれたと言える。また、百足文は「客足が多い」という語呂合わせから、商家などでも好まれたが、本資料が武家の家系に伝来していることを考え合わせると、むしろ武家的な吉祥文様として採用されたと考えられる(森本 2013 p.147)。

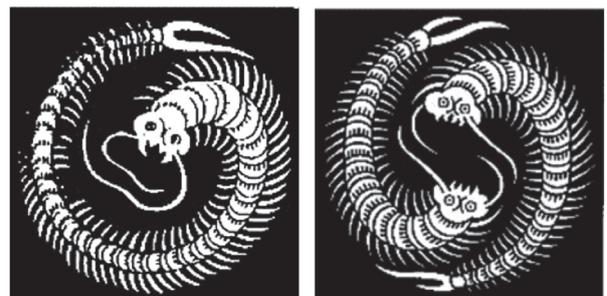


図5 百足文(森本 2013 より)

表3 雲文における色の組み合わせ

	青+緑	緑+黄	青+褐	青+黄	緑+褐	青+緑+黄	計	赤
上面	2	3	1		1		7	5
A面	1	1	1				3	3
B面	1	1	1			1	4	4
C面	1	1					2	3
D面	1			1	1		3	3
計	6	6	3	1	2	1	19	18

表4 雲文における色の出現頻度

	雲単位数	赤	青色	緑色	黄色	褐色
上面	12	5	3	6	3	2
A面	6	3	2	2	1	1
B面	8	4	3	3	2	1
C面	5	3	1	2	1	
D面	6	3	2	2	1	1
計	37	18	11	15	8	5

## 2. 本資料の歴史的位置づけ

白薩摩に上絵付けで色絵、金彩を施した色絵薩摩の生産が、いつ始まり、どのように展開したのかは、幕末・明治以後における輸出用金襴手薩摩の淵源に対する関心ともあいまって、古くより議論されてきているが、その根拠の多くが後代の伝承資料に基づくものであった<sup>5)</sup>。しかし近年、深港恭子（2013・2014・2017・2018a・2018b）や松村真希子（2007・2011）らによって、同時代の文献史料や製作年代が推測できる実物資料が取り上げられ、その解明の端緒がつけられている。以下、それらの成果に基づきながら、近世における色絵薩摩の歴史を整理したい。

現在確認されている、もっとも古い色絵生産に関する記述は、薩摩藩の「記録所」の明和元（1764）年の記録に出てくる（鹿児島県歴史資料センター黎明館編 2012 pp.267-268、深港 2017 pp.7-9）。その記述によれば、左近充喜右衛門は、「焼物方錦手絵書并小細工」を長年勤めた功により、正徳3（1713）年に代々谷山衆中に免ぜられたという。さらにその二男・喜八もまた「焼物方錦手絵書并小細工主取」となり、宝暦3（1753）年に一代城下士に、同13年には代々城下士に仰せつかったという。ここでいう「焼物方」とは藩窯・豎野窯（現鹿児島市）と考えられ、1713年段階で「錦手絵書」という役職があったことが知られる。またその時点で、長年勤めていたとされるので、その始まりはさらにさかのぼると言えよう。この記録は藩の記録所の文書であることから、その信頼性は高いと言える（深港同上）。

この「焼物方」においてどのような「錦手」が生産されたのかは、まだ判然としないが、その使用のされ方は、島津重豪が藩主だった時期（1755-87年）の薩摩藩江戸藩邸の「中奥日記」からうかがいすることができる。中奥とは、江戸藩邸における藩主の私的空間であり、そこにおける出来事を記録したものが「中奥日記」である。表5は、深港恭子（2014 p.166）がその「中奥日記」から陶磁器の贈答の記事を抽出したものをもとに、さらに「にしきて」「錦手」を再抽出したものである。

表5 「中奥日記」における色絵製品（深港 2014 より抜粋）

和暦	西暦	品名	差出	宛先	目的
宝暦6	1756	にしきて御国やき色々	太守様	姫様(菊姫)	中奥訪問の御礼
明和2	1765	錦手御茶わん 二箱	太守様	御前様	参府の国元土産
明和3	1766	錦手焼御香道具 一通	太守様	眞含院様(菊姫)	参府の国元土産
明和3	1766	錦手焼御水入 一	太守様	屋世様	参府の国元土産
明和3	1766	錦手御香道具 一通、錦手丁子風呂 一箱	太守様	浄岸院様(竹姫)	参府の国元土産
明和3	1766	錦手一輪花入 一、錦手御香道具 一通	太守様	御前様	参府の国元土産
明和3	1766	御国焼茶家一、琉球盆一、錦手茶碗一	表(屋敷の表)	その橋	内々の贈り物

この表より、遅くとも宝暦6（1756）年において、藩主（太守様）の贈答品として使用できるほどの品質の製品が生産可能であったことがわかる。「にしきて」「錦手」の器種としては、「茶わん」「香道具」「水入」「丁子風呂」「一輪花入」などが確認できる。その多くが、重豪の江戸参府の際の国元土産として贈答していることは、これらが薩摩産であったことを示唆する。深港は、これらの贈答の在り方から、白薩摩と色絵は、藩主のみが用いることが許されていたと推測している（深港 2014 pp.165-167）。

ところで表5の色絵製品は藩窯・豎野窯の製品と考えられる。藩窯の製品は、商品も焼かれていたことがわかっているが（橋口 2002、深港 2014）、多くは藩からの需要に応えるための「御用」の製品である。幕末の『御内用方萬留 一番』には、「御用」として「献上御用」「御前御用」「お先御用」「御用」など複数種類の用例がある。「献上御用」とは將軍家などへの献上品、「御前御用」は藩主が使用する什器など、「お先御用」は、まだ確定はできないが、藩主の娘などの輿入れ道具を「お先道具」と呼ぶことから、そのための陶器と考えられる。「御用」は藩における公用品（鹿児島城や江戸藩邸での什器など）である（深港・渡辺 2016、渡辺 2018）。表5の贈答品としての色絵製品は、「御前御用」に類するものと言え、御用品の中でも高ランクに属するものと考えられる。また深港が指摘するように、その使用が限定されているとするならば、同時期の色絵薩摩の生産は少数にとどまっていたと推測される。

このような豎野窯で生産された色絵陶器が、大きく変化し始めるのが、19世紀中頃、苗代川（現日置市美山）に色絵技術が導入され、商品としての色絵製品の生産が始まってからである。前掲の『御内用方萬留 一番』は、幕末の苗代川における殖産興業策の実相を伝える貴重な同時代史料であり、それによれば、嘉永元（1848）年、苗代川の姜早丹と朴正官が「錦手稽古」のために豎野窯に派遣されている（深港・渡辺 2016 p.168）。これまで苗代川における色絵生産の始まりについては、「陶器功労者履歴」<sup>6)</sup>の朴正官の項に、弘化元（1844）年に彼が「錦手主取」（主取＝責任者）に任命されたことが挙げられていたが、「陶器功労者履歴」は明治18（1885）年のものであり、同時代史料の記述の方がより信頼性が高い。朴正官の主取就任は1848年より後のことと推測される。なお日置市美山の玉山神社に伝来する文久元（1861）年銘の陶製棟札には「錦手方」の主取として朴正官の名前がある（深港・渡辺 2016 p.168、渡辺 2019）。また朴正官は、安政4（1857）年に島津齊彬の集成館事業において色絵の開発・改良に従事したことが伝えられており（「陶器功労者履歴」）、1850年代、苗代川における色絵生産は、急速に発展していった可能性が考えられる（深港 2017）。そしてその技術基盤が、輸出用薩摩の発展へと結びつくのであろう。

以上のように、薩摩焼における色絵陶器の生産は、遅くとも18世紀初頭には始まっており、中頃には「御前御用」に供せられるほどに品質が向上し、さらに19世紀中頃～後半には、苗代川において商品としての生産が開始されたことが文献からうかがいしれる。

ではどのような色絵薩摩が生産されたのか？ 残念ながら現段階では、年代の推定できる資料が少なく、その具体相ははっきりしない。しかし近年、鹿児島県歴史資料センター黎明館で開かれた企画展「華麗なる薩摩焼—万国博覧会の時代のきらめき—」（2018年12月25日～2019年2月24日）において、

いくつか紹介されている（鹿児島県歴史資料センター黎明館編 2018）。たとえば金彩色絵菊折図茶碗（文政 8（1825）年銘）（同上 p.58）や、白河藩主・阿部家に嫁いだ島津重豪の孫娘・聰徳院（1802-72 年）ゆかりの色絵双耳壺（同上 p.68）、島津久光（1817-87 年）が興した玉里島津家伝来の色絵薩摩（同上 pp.55-56）などである。文政 8 年銘碗は年代が確定できるものの、藩主・島津斉興（1791-1859 年）による絵付けと伝えられているもので、その文様は簡素であり、当時の色絵薩摩の一般的な様相と違っていかためらわれる。他の事例は豎野窯の御用品と考えられ、白地の部分を多く残し、金彩の使用が少ない、あるいは使用しない点など、近世における武家向けの色絵薩摩の一端を伝えている可能性がある<sup>7)</sup>。また 1867 年のパリ万国博覧会に出品された色絵薩摩の一部がイギリスのヴィクトリア&アルバート博物館に収蔵されているが（同上 pp.86-90、松村 2007・2011）、それらの多くは、苗代川産の可能性が高いものの、前掲の豎野窯製品と共通する要素を持っている。

このほかに幕末期あるいは明治初期と考えられる、草花文を描き、口が大きく広がる大型瓶が、徳川美術館（尾張徳川家）や三の丸尚蔵館などに所蔵されている（深港 2018a、鹿児島県歴史資料センター黎明館編 2018 pp.77-80）。これらは輸出用金襴手薩摩と器形的に共通し、また文様が器壁面に占める比率が増大、金彩も増えている。パリ万博出品作よりも、海外市場をより意識した製品と考えられる。

以上のように、秋山家伝来の角形瓶は、今和泉島津家より拝領したこと、百足文という武家の価値観に合致した文様が採用されていることなどから、武家向けに生産された豎野窯製品と推測される。また白地を多く残すこと、金彩を用いていないことなどの技法的特徴は、19 世紀の色絵薩摩、とくに輸出用でない国内向けの色絵薩摩の具体的姿を知る上で貴重な資料と言える。ただし金彩の不使用は、金彩使用製品とのランク差を示している可能性もあるため、単純に時期差とは言えない。

## おわりに

以上、秋山家伝来の色絵薩摩角形瓶について、その特徴を報告し、薩摩における色絵陶器の歴史の中での位置づけを試みた。以下、本稿での要点をまとめて結語としたい。

- (1) 本資料は、薩摩藩藩窯・豎野窯の製品と推測される。また武勇の象徴である百足文を主文様として採用している点は、その供給先が武家社会であったことを示唆する。
- (2) 角形瓶の各面に見られる雲文の配色には、一定の規則性が存在したと推測され、このことは何らかの模本のようなものが存在していたことを暗示する。類例との比較検討が今後必要である。
- (3) 薩摩藩における色絵陶器の生産は、遅くとも 18 世紀初頭には始まり、同世紀中頃には藩主の使用に応じられる品質が達成されていた。それらは御用品が主であったと考えられるが、19 世紀中頃、苗代川に色絵技術が導入されることで商品としての色絵陶器生産が本格的に始まった。
- (4) 近世期の色絵薩摩の具体的姿については、徐々に明らかにされているが、その実態は不明な点も多い。底部の墨書より 1861 年以前の製作が想定できる本資料は、国内向けの近世色絵薩摩の具体的特徴を知る上で、きわめて貴重な資料である。

## 謝辞

貴重な資料の観察ならびに報告の機会を与えていただいた所有者の秋山壽彦氏ならびに指宿市教育委員会社会教育課の方々に厚くお礼申し上げます。また執筆にあたっては、深港恭子氏（鹿児島県歴史資料センター黎明館）に多くのご教示を得ました。記して感謝申し上げます。

## 注

- 1) 陶磁製の火薬瓶については類例を探し得なかったが、木製・金属製のそれでは、貴重かつ危険な火薬を取り出すために、口部が小さいものや、細くすばまっているものが多いようである。それゆえ本資料も伝えられるように火薬瓶だったとすると、現在の口部形態はやや不自然である。
- 2) 「侯」と読む例もあるが(森田 2014 など)、「君」のくずし字に近い。「華麗なる薩摩焼」展図録では「君」と読んでいる(鹿児島県歴史資料センター黎明館編 2018 p.54)。
- 3) 「色絵」と「錦手」は、ともに多彩色の上絵付けを施した陶磁器を指し、さらに金彩を加えたものは「金欄手」と呼ばれている(矢部編 2002 p.113・427・1056)。しかし文献に見られる「錦手」は金彩の有無が不明である。それゆえ本稿では、金彩をとまなうものも含めて色絵と総称し、薩摩焼のそれを色絵薩摩と呼ぶ。
- 4) ただし元来の色(紫か)が変色している可能性もある。ここでは淡褐色あるいは褐色と表記する。
- 5) 薩摩焼における色絵陶器の起源については、慶安元(1648)年の有村碗右衛門の京都御室窯修業、寛政5(1793)年の星山仲兵衛・川原芳工の肥前・筑前・京都などでの修業、文化年間(1804～18年)の重久元阿弥の京都仁阿弥道八のもとでの修業など、いくつかの伝承があるが(田澤・小山 1941、pp.112-115)、いずれも確証はない。なお上掲書では、星山・川原が京都の錦光山宗兵衛の元で修業したとするが、金華山・青木宗兵衛の誤りである(渡辺 2000)。
- 6) 「陶器功労者履歴」とは、明治18(1855)年の繭糸織物陶漆器共進会の際に作成された書類で、薩摩焼各窯場での代表的な陶工たちの履歴が記されている。鹿児島県立図書館所蔵の『薩陶製蒐録』に収録されている。
- 7) ただし玉里島津家の成立は明治以後であり、島津久光は明治20(1887)年に死去しているので、伝来資料の製作年代は明治期に下る可能性も存在する。

## 引用参考文献

- 小木一良 2000 「館蔵「鍋島家伝来『図案帳』」展示について」『陶説』571 pp.36-39
- 鹿児島県歴史資料センター黎明館編 2012 『鹿児島県史料 旧記雑録拾遺 記録所史料一』鹿児島県
- 鹿児島県歴史資料センター黎明館編 2018 『華麗なる薩摩焼—万国博覧会の時代のきらめき—』展図録 同館
- 田澤金吾・小山富士夫 1941 『薩摩焼の研究』東洋陶磁研究所(国書刊行会復刻 1987)
- 鍋島藩窯調査委員会編 1954 『鍋島藩窯の研究』佐賀県文化館
- 橋口亘 2002 「文化三年銘白薩摩染付松竹牡丹文角形酒注をめぐる諸問題—薩摩焼と錫器のデザイン、白薩摩角形酒注の価格・豎野系製品の流通について—」『からから』13 pp.11-22 鹿児島陶磁器研究会
- 深港恭子 2007 「沈寿官家における白薩摩原料の調達と製品の販路について—沈寿官家文書を通して—」『からから』23 pp.6-16 鹿児島陶磁器研究会
- 深港恭子 2013 「輸出用薩摩焼に見るイメージとしての日本」『近世やまと絵再考—日・英・米それぞれの視点から—』pp.261-282 ブリュッケ
- 深港恭子 2014 「窯業生産地としての苗代川の形成と展開」『薩摩・朝鮮陶工村の四百年』pp.159-189 岩波書店
- 深港恭子 2017 「薩摩焼における錦手技法の成立と展開：万国博覧会における薩摩錦手好評の背景」『黎明館調査研究報告』29、pp.1-19
- 深港恭子 2018a 「三の丸尚蔵館の薩摩焼について」『三の丸尚蔵館紀要』23 pp.13-24
- 深港恭子 2018b 「薩摩焼の国際性—その華麗なる変容」鹿児島県歴史資料センター黎明館編 2018 pp.7-8
- 深港恭子・渡辺芳郎 2016 「幕末苗代川における磁器生産—『御内用方萬留 一番』の検討から—」『東洋陶磁』45 pp.155-180

松村真希子 2007 「色絵金彩薩摩 試論 I - ヴィクトリア & アルバート美術館所蔵作品を基準として -」『からから』 23 pp.1-5 鹿児島陶磁器研究会

松村真希子 2011 「明治期サツマの様相 - 海外美術館所蔵品の調査から -」『東洋陶磁』 40 pp.117-138

森田秋弘 2014 『今和泉島津家』 私家版

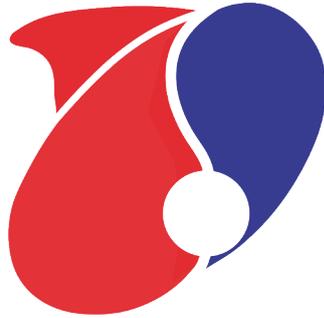
森本勇矢 2013 『日本の家紋大事典』 日本実業出版社

矢部良明編 2002 『角川日本陶磁大辞典』 角川書店

渡辺芳郎 2000 「「金華山」と「錦光山」 - 寛政 5 年川原芳工・星山仲兵衛の陶法修業先をめぐる疑問 -」『からから』 7 pp.5-8 鹿児島陶磁器研究会

渡辺芳郎 2018 「近世薩摩焼・象嵌陶器の基礎的研究」『中近世陶磁器の考古学』 9 巻 pp.275-304 雄山閣

渡辺芳郎 2019 「日置市美山玉山神社伝来資料」『鹿児島県文化財調査報告書』 65 鹿児島県教育委員会（印刷中）



ANNUAL REPORT & BULLETIN OF  
IBUSUKI ARCHAEOLOGICAL MUSEUM

---

---

指宿市考古博物館 時遊館COCCOはしむれ  
博物館年報・紀要 第13号

2019年3月

発行

指宿市教育委員会

鹿児島県指宿市十二町 2290 番地

TEL 0993-23-5100

印刷所

株式会社 指宿新生社印刷

鹿児島県指宿市東方 8068-3

---

---